



「今年の抱負」

国家公務員共済組合連合会 名城病院長 早川 哲夫

名城病院では、今年も「良い医療を安全・確実に提供する」ことをめざします。このことが持続可能であるためには、地域の皆さんの協力が大切です。その意味で、昨年「パートナーシップを大切にします」を病院のモットーの一つに加えました。病院の勤務環境を整え、スタッフが安心して医療に専念できるようサポートに努めています。

昨年の10月には、日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査に合格しました。

これは、当院が「良い医療を安全・確実に提供する」努力をいつも続けていることを認められた結果です。日頃のスタッフの努力と患者さんの協力の賜物と感謝しております。

同じく、7月には心臓や脳へ行

く血管が詰まったり、破れたりした時の治療に役立つシネアングオの装置を最新式に致しました。心筋梗塞や脳卒中などをはじめ血管の治療が必要な時には今まで以上に安全・確実にできるようになりました。この数年来CT・MRIなどの画像診断装置を最新式のものに取り替えました。そのため、心臓・脳・脊椎・肺・腹部などの病気の診断や手術などの治療の成績と安全性が向上しました。

昨年10月には名城病院と連携している診療所の先生方に当院の医療に対するアンケートをとりました。その結果、診療所からの紹介患者の受診が円滑になるよう当院の各診療科に専用の予約枠を新年から立ち上げました。皆さんがかりつけ医の紹介で当院を受診される時には今までより円滑にな

ると思います。万一不具合が見つかりましたらお知らせ下さい。改善し、使い勝手の良いものに育て上げます。

病院内の診療環境の一層の改善のために、院内禁煙に加えて、院内の暴言・暴力・セクハラなどを防ぐよう努めます。県医師会のポスターを掲示するとともに、院内モニターの充実をはかっています。お気づきの時は遠慮なく、近くのスタッフにお知らせ下さい。

最近では、医療ばかりでなく、食・住の安全もあやうくなってきました。年金・医療・食・住などの国の基本となるものの安全性の確保には国民生活の安全に配慮できる良い政治家が必要です。今年こそは、皆さんも、政治家の日頃の言動に注目し、真に国民の安全を考える政治家を選挙して下さい。病院を良くするためには良い医療政策が必要です。名城病院を良くするためには皆さんの協力が是非必要です。皆さんの健康と安全を祈っております。

「咳エチケット」にご協力を！



マスクは売店(地下1階)で販売しています。

咳やくしゃみをするときは、ティッシュで口と鼻をおおひましよう。

使用したティッシュは、袋などに入れて、ふた付きゴミ箱に捨てましよう。

咳やくしゃみをした後は、よく手を洗ひましよう。

咳などの症状がある場合は、人のいるところでは、マスクをしましよう。

インフルエンザは予防が肝心。厚生労働省では基本の「うがい、手洗ひ」に加え、新たに「咳(せき)エチケット」を提唱しています。

脳神経外科

正常圧水頭症という病気を
ご存知ですか？

水頭症は、脳や脊髄を循環する「水」(髄液)が、脳の中心にある脳室でたまり、まわりの脳を圧迫して症状を出す病気です。このうち正常圧水頭症はゆっくりと症状が現れます。高齢者に多く、その原因はよくわかっていません。最も多いのは歩行の障害で、小股で転びやすくなったり、足をひきずるような歩きになったりします。また認知症(もの忘れ、意欲の低下)や尿失禁もよくあります。これらの症状にくわえて脳のCTやMRIで、脳室の拡大などの特徴を示した場

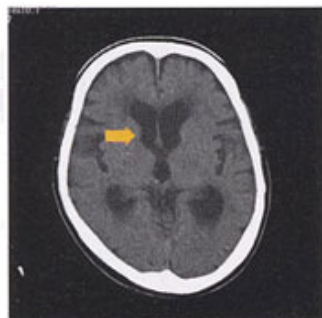
合は正常圧水頭症を強く疑います。検査入院では、腰から「水」(髄液)を抜いて、数日様子を見て、これで症状がよくなれば、手術治療が勧められます。歩行の障害に関しては9割の方で改善が期待できます。

治療はシャント(短絡術)といい、チューブを用いてたまった髄液をくみ出し、腹腔の中に髄液を逃がして吸収させる手術です。チューブはごく細いもので、皮膚の下を通すため、外からは見えません。全身麻酔が必要な手術ですが、高齢の方にも受けていただいでい

ます。長年、脳室-腹腔シャントという、頭部とおなかをつなぐ経路が主流でしたが、最近当施設では腰椎-腹腔シャントという、腰とおなかをつなぐ手術に積極的に取り組んでいます。脳室-腹腔シャントに劣らない効果があり、脳の中にチューブを通さなくても良いこと、腰とおなかのみの限られた範囲を使用する手術で、きずも余り目立たないことなどの利点があります。

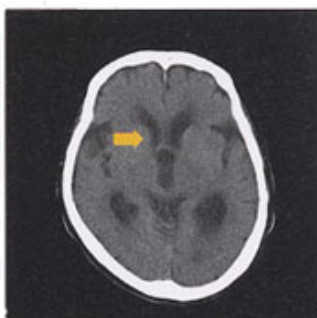
今回は正常圧水頭症の特徴が、高齢者の歩行障害、認知症、尿失禁など「年齢のせい」と見過ごされがちな症状であること、手術で治ることが期待できること、また手術法もより患者さんの負担の少ないものになってきていることからご紹介をいたしました。

CT画像①



正常圧水頭症で拡大した脳室

CT画像②



手術後縮小(改善)を認めます

小杉美智子・波多野寿

リハビリテーション

ことばや
食べることのリハビリ

突然ですが、「言語聴覚士」ってご存知ですか？言語聴覚士(ST: speech therapist)は「言葉(コミュニケーション)や食べることのリハビリテーション」を行う療法士です。当院では、主に外来患者さん担当(毎週火曜午後)と入院患者さん担当の2名が携わっています。

言葉の障害になる原因は

脳梗塞等の脳血管障害が多く、パッと言葉が出てこない失語症、呂律が回らず言葉が不明瞭な構音障害、声を思うように出せない音声障害等があります。例えば、ある失語症の方の場合、絵カードを使用し物の名前を1つでも多く言えるようにする訓練を行っています。訓練内容は症状によって異なるため、個人に合った訓練内容を考慮して取り組んでいます。

また、食べることの障害(嚥下障害)になる原因は主に脳血管障害です。口唇や舌等の運動低下により食物が口からこぼれたり咀嚼・送り込みがしにくい症状や、喉の動きが低下し、

むせて食物や水分を飲み込みにくい症状があります。食べられない方には口から食べられることを目指して飲み込みの基礎練習を行い、食べられるようになったら状態に合った食形態や食べ方の工夫を提案しています。飲み込みにくい場合は、誤嚥(食物や水分が気管に入ること)の危険性もあり、一瞬も気が抜けません。

私達は、患者さんが日常生活を少しでも豊かに過ごしていけるよう手助けをしていきたいと考えています。今後も一緒に楽しくリハビリに取り組んでいきましょう。



言語聴覚士 奥村伸子

6階病棟

6階病棟紹介

6階病棟は循環器センター（循環器内科・心臓血管外科）に、平成20年3月より泌尿器科が加わりました。専門医が垣根を作らず、医師、看護師が一致協力して治療・看護にあたっています。当院は循環器救急医療に力を入れており、急性心筋梗塞や不安定狭心症に対する緊急冠動脈造影は24時間対応できる体制をとっています。検査所見に基づき、冠動脈インターベンション*やバイパス手術など一人一人の患者さんに合わせて、最善の方法をきめ細かく検討しています。病棟の特徴から夜間の緊急入院も多く、忙しく時

間に追われる毎日ですが、2名のナースマンを含めた29名の看護師が笑顔と健康美で看護に励んでいます。循環器の高度医療に取り組む当病棟では、勉強会の定期的な開催とともに個々の看護師が各種研修会に積極的に参加するなど、専門分野の看護師として自己研鑽に努めています。専門職として常に看護の本質を追究し、科学的・創造的・かつ主体性のある看護を目指します。さらに、当院の高度医療に対応できる知識・技術レベルを維持し、かつ向上を図り、看護を安全に提供します。また安静療法や高齢者の患者さんには「寝たきりにしないこと」をモットーに看護にあたっています。最近の出来事ですが、娘さんの結婚式に参加することが現在の病状では難しい患者さんが、娘さんの強い希望もあり、病



循環器センター集中治療室 (CCU)

院のロビーで牧師さんを招いての人前結婚式に出席することができました。また結婚の日を目標に、看護師と言語聴覚士の先生が協力し、娘さんに内緒で絵を作成しプレゼントしました。時間はかかりましたがニコニコと一生懸命制作する患者さんの姿にとても心打たれ、元気になる目標を持つことの大切さを学ばせていただきました。患者さんが安心して治療を受けられる医療、そしてこころが触れ合う看護を常に心がけていきたいと思います。

*インターベンションとは、狭くなった血管をカテーテルを通して広げる治療。



6階病棟スタッフ

6階病棟看護師長 岩佐多恵子

1階エントランスホール

昨年11月2日(日)、名城病院の1階エントランスホールで結婚式が行われました。

これは患者さんの娘さんが、入院中で前日の結婚式に参列できなかったお母様のために行ったものです。

結婚式の数週間前、新郎杉本光浩さんと新婦由紀さんから、今まで大切に育ててもらった母にどうしても結婚式での花嫁姿を見せたいと病院に相談がありました。

病院ではエントランスホー

ルを休日を使用することをお母様の病状、由紀さんのお母様への思いやりなどから特別に許可し、新婦の友人や病院スタッフの有志で式を行うことになりました。

1階エントランスホールを白いカーテンとピンクのリボンで飾り、参列者用に並べた椅子の真ん中に通路を開けパーズンロードを設け仮設のチャペルが出来上がりました。

病室から車椅子のお母様が看護師に付き添われ最前列の

席に着くと、牧師の合図で結婚行進曲が流れ、新郎新婦の入場で結婚式が始まりました。純白のウェディングドレスに身を包んだ由紀さんは光浩さんとともに、お母様の目の前で結婚



の誓い、指輪の交換、ケーキカットなどのセレモニーを披露しました。

そして最後に、お母様から由紀さんに闘病のなかで用意したプレゼントが渡されると、お二人は感激し、抱き合って涙を流していました。

参列者はもちろん、偶然居合わせた入院患者さんや病院スタッフの祝福の拍手のなかで結婚式はお開きとなりました。

ご結婚おめでとうございます。また、お母様の一日も早い退院をお祈りいたします。



ご協力お願いします

良い医療を安全・確実に提供するために

名城病院では、入院患者さんにリストバンドを装着していただいております。



リストバンドは白く柔らかい素材で患者さんの氏名やバーコードなどがプリントしてあります。検査、点滴、処置などを行う場合に患者さん確認を確実にし、取り違い防止を図る目的です。万一のミスを防ぐためにご協力をお願いします。

病院と患者さんのパートナーシップを大切に、安全な医療を提供していきます。

栄養部 給食科

行事食のご紹介

栄養部給食科では、患者さんの一日も早いご回復を願って、入院中のお食事をご提供しています。節句や国民の祝祭日などには、体調に応じたお祝い膳などもご用意しています。本日は、お正月の「名城御膳」と、ご出産の「お祝い膳」をご紹介します。お味は薄味が多いですが療養食ですので、ご理解をお願いします。

お正月の「名城御膳」



年始に相応しいお食事を三箇日の間、心を込めてお作りしています。

- 献立(例)
- お赤飯
 - ぶりの幽庵焼き
 - うま煮
 - おかか和え
 - 澄し汁(わかめと花魁)

ご出産の「お祝い膳」



ご出産された患者さんに、お子様のお誕生をお祝いしご用意しています。

- 献立(例)
- ちらし寿司
 - 尾頭付きエビフライ
 - 副菜2品
 - 紅白つみれ(お吸い物)
 - 季節のフルーツ(3種盛り)
 - 野菜ジュース

お知らせ
看護職員募集
 一緒に働きませんか!
 詳しくはホームページ又は人事係まで



読者の皆様は、新年の迎え方ってお持ちですか?子供のころ、大晦日と言えば北海道神宮への初詣が恒例になっていた。外苑では、往来する人々に甘酒を振る舞っていた。冷えた身体を温めてくれる思い出の一杯である。それは、綺麗に濾されたものではなく酒粕の食感を残した田舎っぽいのだったと記憶している。その時の名残なのか、今日でも正月には欠かせない味覚となっている。この冊子が発刊される頃には正月気分もぬけて懐かしい日常に戻っているのでしょうか…。さあっ心機一転、今年も頑張っておくぞ〜。山田

後記

ホームページはこちら <http://www.meijohosp.jp>

名城病院診療等のご案内

診療科目
 内科・循環器科・小児科(小児循環器)
 外科・整形外科・脳神経外科・心臓血管外科
 皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
 歯科口腔外科・神経内科

診察受付時間
 【新患受付】 午前8:30～11:30まで
 【再来受付】 午前8:00～11:30まで

面会時間
 【平日・土・日・祝】 午後0:30～8:00まで
 但し、①小児科病棟は、午後7:00まで
 ②ベビーの面会は、
 {午後0:30～1:00まで
 午後2:30～3:30まで
 午後5:30～6:30まで} の3回です。
 ③ICU室への面会は、30分以内に限らせていただきます。

診療案内
 【休診日】 土曜日・日曜日・祝日
 年末年始(12月29日～1月3日)
 創立記念日(11月6日)

所在地
 〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
 TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318

※神経内科は午後診療等、詳しくは、
 医事課(052)201-5311 内線2132 にお問い合わせ下さい。
 ※医療福祉に関するお問い合わせは、医療福祉相談室(内線5105)まで
 ※医療機関の方へ
 病診連携に関するお問い合わせは、病診連携室(内線2151)まで



名城病院は、よりよい医療を提供していくために病院機能評価の認定を取得しています。